

吐いたり。

# 蟲の口から千七百五十萬圓

昭和十一年の

養蠶統計

## 前年より三百三十萬圓増加

### 目方にするると三百八十五萬貫

口から糸を吐き出す蠶!!其の蠶の昭和十一年度の調査が縣統計課から發表された。養蠶戸數は六萬三千五百四十八戸で蠶種掃立數量は三百八十一萬五千七五(内春蠶二百九十六萬

#### 前年に比べると

七百二十六瓦、夏秋蠶三百八十一萬五千七五)繭の産額は三百八十五萬一千三百九十八貫、この價額は一千七百五十六萬八千五百二十八圓の巨額に達してゐる、その内春蠶は百八十二萬九千八百六十六貫(價額八百九十三萬四千二百七十八圓)夏秋蠶は二百二萬一千五百三十二貫 價額八百六十三萬四千二百五十圓)で、數量に於ては昭和八年の四百十三萬九千貫、同九年の三百九十八萬七千貫、同六年の三百八十九萬八千貫に次ぐもので累年比較中第四位の豊作である。これは本年に於ける夏秋蠶が氣候適順にして蠶兒の發育良好なりしと、繭

價の好況を見越し追掃の多かりしに依り掃立數量の増加したのに依るものである。これを  
掃立數量において夏秋蠶では十四萬六千二百七十一瓦(四分一厘)を増したが、春蠶では十七萬二千六百八十八瓦(五分五厘)を減じた結果差引二萬六千四百十七瓦(四厘)を減じた。かかる繭の産額においては春蠶で一萬二千二百四十六貫、夏秋蠶で三十七萬六千七百五十六貫、合計で三十八萬九千二百貫(二割一分三厘)を何れも増し、價額では總額三百三十四萬九千七百七十三圓(二割三分六厘)の著しき增收を見たのである。これは前年の蠶作の不良に基くものなるも、本年の夏秋蠶

に農家が如何にベストを盡したかは其の掃立の増加より見るもあきらかであらう。斯くして養蠶は近來に珍しい增收、米作も恵まれて

#### 大に福々の農村を

現出し此處數年の不作を緩和し、各方面に景氣恢復とか、好景氣來るとか、赤字克服とか、黒字々々と云ふ様なうれしいたよりを聞く様になつて來た。農村こそ社會の原動力で、農村が富めば國も富み、購買力は加はり、思想も安定するのであるから、今年の様な年を續かせたいものである。

### ◇昭和十一年養蠶郡市別

郡市別	掃立			收繭			前年收繭高ニ比シ増
	總數	春蠶	夏秋蠶	總數	春蠶	夏秋蠶	
水戸	五、三三九	二、七九四	二、五四五	三、一三三	一、六三三	一、五〇〇	七五三
東茨城	五、六六三	三、三六六	二、二九七	三、七〇九	一、五〇九	二、二〇〇	四三三
西茨城	二、九九五	一、〇四一	一、九一〇	一、七五三	六九七	七五八	二四
那珂	三、七七一	一、〇七五	二、六九六	二、七六五	六〇七	七〇九	一五八
久慈	三、五五五	六、七〇二	二、二六九	一、〇九七	六〇〇	四九七	三〇〇
多賀	八〇〇	八、三三六	一、四九七	一、七六〇	六	八七五	九四二
鹿島	三、一八三	一、三九七	一、七八六	一、九〇九	九〇	九八〇	一三
行方	二、九〇〇	二、〇三三	八二七	一、四八三	七五	七〇八	九八
新治	七、一一三	二、七六九	四、三四四	三、五三〇	二、五三三	一、〇〇〇	一四〇
筑波	九、八七五	二、八九九	七、九七六	四、七九〇	二、五三三	二、二五七	一四〇
眞壁	七、八〇六	四、八四九	二、九五七	三、三三三	一、五三三	一、八〇〇	一八〇
結城	六、三〇〇	三、九七六	二、三四二	三、〇〇〇	一、五三三	一、四六七	一五三
猿島	二、五〇六	三、九七六	五、七〇八	三、〇〇〇	一、五三三	一、四六七	一五三
北馬	二、七六七	二、八五六	一、〇七五	一、五三三	七五	七〇八	九八
合計	六三、五五八	二九、〇七六	三三、四八二	三六、五三三	一八、八六六	一七、六六七	一、八六六